

令和元年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校 第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」の領域においては、「相手に分かりやすく伝える表現」の理解ができておらず、相手を意識した話し方に課題が見られた。 「読むこと」の領域においては、「文章に表れているものの方や考え方について、自分の考えをもつ」ことが不十分であり、他者の考えやものの方を自分で咀嚼して自身の思考につなげる力に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動の際に目的を明確化し、これまで行ってきた「読解のための話し合い」に加えて「議論の力を高めるための話し合い」も授業の中に積極的に取り入れていく。その際、他者の話し合いの様子を観察する時間も設け、「どのような表現なら相手に分かりやすく伝わるか」を客観的に学ぶ機会をつくる。 文章の読解後に作者や筆者のものの考え方・考え方について自分の考えをまとめる時間を増やす。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算力があり、典型的な問題はできている。 資料を読み取ること、文章を読み取り、その場で考え対応する問題への解決が弱い。 「資料の分析と活用」に関する問題の正答率が低く、都平均も全国平均も下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算力は継続して小テストなどを行っていく。 文章を読み取ることができるようになるために、短い文章題を繰り返し行っていく。 既習事項であっても用語などを確認していく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ノート作成やプリントの問題演習にどの生徒も意欲的に取り組んでいる。ただし、用語を入れる問題ではなく、資料を読み取って考察した結果を文章で記述する形式の問題になると苦手意識を持っている生徒も見られた。 定期考査では漢字のミスが点を落とす原因になっている生徒がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップとして、単元のねらいに関わる核心的な問いを3択問題等にして提示し、つかまぜたい事柄を焦点化し、生徒の気づきを促す。班活動など話し合い活動を取り入れ、学び合いの場を設ける。社会科＝用語の暗記ではなく、「なぜ」を意識し考えることが大事だと生徒が意識できる授業作りを引き続き行う。 「間違いやすい漢字一覧」を定期考査前に生徒に知らせる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察などを班で協力しながら器用にこなし、データの測定などもスムーズであった。またデータを予測しながら、先を見通して実験を行っている様子も見られた。 実験からわかったことをまとめる際に時間がかかる生徒が多く、実験から得られた事象を文書化することに課題がある。 難易度の高い問題になると、不正解率が高まる傾向が大きいことがわかった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①高い興味・関心、上手に実験を行わせることを継続するために、興味関心を引く実験を工夫して多く行うことを継続する。 ②実験の考察をまとめる時間を多くとり、ヒントを出しながら、文書化できるよう支援する。 ③比較的難易度の高い問題の演習の時間を確保し、教え合いや習熟の遅い生徒の支援などを行う。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに取り組もうとする生徒とそうでない生徒の差がある。合唱への意欲は高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。鑑賞への取り組みも概ね積極的に行っている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。 ⑤様々な楽器を体験させる。 ⑤授業規律の徹底 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 各活動に意欲的に取り組む様子が見られる。 自己をみつめ表現しようとする意識を高くもち取り組む生徒が多く見られる。 主題を深く追求せず、表面的な活動におさまってしまう生徒がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つのプロセスに対し目標を明確にさせる。また、自己の感覚を働かせ造形活動に取り組むことがどのように自己を成長させるかについて気づきがうまれるよう、引き出していく。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <女子>授業規律に問題はなく、前向きに取り組もうとする生徒が多い。しかし、種目によってはやや意欲に欠ける面が見られる。 <男子>一部の生徒が落ち着かずその生徒に流されてしまうことがある。しかしけが防止についてはルールやマナーは身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> <男子・女子>学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。スモールステップで行い、T.T.を有効活用し、技能を習得させていく。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 授業へ熱心に取り組む生徒が多く、実習作業へ力を入れる生徒が非常に多い。また、定期考査での正答率も非常に高く、知識や理論はかなり定着していると考えられる。一方で、プリントやレポート類の取り組み方に差がみられ、内容に大幅な不足がみられるものや、意欲が欠けている様子が見られるもの、提出日に出てこないものなどがある。これらから、思考する事や工夫をする事は苦手であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントやレポートの扱い方について綿密な指導を行う。レポートを作成する事は他教科や以後の学習活動においても重要であり、最終的には論文執筆にまでつながる要素である事を伝える。また、思考力や工夫創造を促す具体例を多数例示し、日常生活や行っている実習との関連も示唆する事で、生徒たちの興味関心を高め、より積極的に学習へ取り組めるようにする。 	
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からの取り組みにより、語彙力はついてきているが、それらを活用し表現することに課題がある。特に自分で考えて、自分の言葉で表現することが課題である。 読むことに関しても、300語程度のまとまった文章を読んで理解することに苦手意識を持っている生徒が多い。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ペア、グループ活動で進出文法や基本表現の練習を繰り返し行い、自然に口から発せるようにする。 ②各単元の終わりに、単元の内容に基づいたスモールトークやフリーライティングを取り入れ、表現の場を作る。 ③単元毎のReadのセクションを活用したり、他の教材を活用し、読むことに慣れる。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年時のQUテストの結果を見ると、学校生活に満足している生徒や、友人や先生との関係が良好である生徒、学校での学習に積極的であると答えた生徒が、全国の平均値のラインを超えていたが、自分の将来の進路について考えているという質問に対しては、全国の平均と同等であり、他と比べると明らかに低い値となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 以上のことから、特に3年生の進路選択については、丁寧に説明を行い、必要な情報を確実に伝え、生徒が自己有用感をもって、安心して進路選択が行えるようサポートを行いたい。また、修学旅行など行事の事前、事後学習を、1年生からの見通しを持った計画のもと行い、他人に伝えるコミュニケーション能力の育成など、前に踏み出す力を高めていく。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対しては真摯に臨んでいる生徒が多いものの、他者との交流を通して自分の考えを再形成する過程においては課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を様々な形で取り入れたり、活動中の発問を工夫したりして、生徒がより自己の考えを深められるようにする。 	